

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰準

勝木 紀子

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

今年は東京でオリンピック・パラリンピックが開催されますが、わが国における夏季オリンピックの開催は本大会で2度目となります。第1回大会は戦後からの復興を果たした1964年に東京で開催されました。この年は、わが国の言語聴覚分野の歴史においても記念碑的な年になります。というのは、この年の秋に笹沼澄子先生によってわが国最初の失語症の言語臨床が開始されたのです。笹沼澄子先生によると、そのいきさつは次のようなものであったということです。当時、東京大学物療内科教授であった大島義雄先生がNew York大学Rusk InstituteからMartha Taylor博士を招き、5日間の失語症講習会を開催されました。このとき、Taylor博士は物療内科の関連病院である長野県の厚生連鹿教湯温泉療養所に赴き失語症患者に面接されました。笹沼澄子先生はその助手としてTaylor博士に同行され、それが縁となってこの年の秋に同病院で失語症の言語治療部門を開設されたということです。

それから50年以上が経過し、言語聴覚療法を提供する場は大きく拡大してきましたが、問題は量だけでなく質の充実です。どのような時代にあっても、言語聴覚障害者のニーズに応えるには臨床研究の積み重ねが重要です。本誌は、このような研究の成果を発表する場であり、特に基礎的研究に裏打ちされた評価法や治療法の開発、言語聴覚療法の効果の検証、時代の要請に応える専門的サービスの創出に関する研究は本誌ならではのものと思います。

今号は、「失語症者への専門性を活かした地域支援」と「サルコペニアの摂食嚥下障害、老嚥、オーラルフレイル」といった極めて今日的な問題について、複数の著者が異なる観点から解説しています。また言語聴覚士の感染対策といった重要課題について、経田香織氏が調査報告をしています。講演では、緒方祐子氏が小児の構音操作の誤りとその指導法について丁寧に論述しています。このような研究の蓄積が言語聴覚障害がある人のニーズに真に応える臨床の進歩につながるものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第17巻 第1号) 2020年3月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：本体2,000円＋税

2020年年間購読料：本体7,500円＋税(4冊、送料発売会社負担)

編集・発行：一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2020, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)